

アクティブ層にリーチ

世はまさに高齢化社会。総務省統計局によると、総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は、2013年に25.0%となった。今や、4人に1人が高齢者というわけだ。

1947年～1949年に誕生した、いわゆる「団塊の世代」が65歳に達したことも要因としてあり、今後さらなる高齢化が進むことが予想される。

昨今のシニア層の特徴に、消費意欲が旺盛という点がある。

高度経済成長期の日本を支え、娯楽に自分磨きにとお金の使い方を心得ている彼らは、金銭的に余裕があり、仕事をリタイヤしても積極的な消費行動を続けることが期待される。

旅行などのレジャー、自動車や貴金属、服飾品などの高額商品、教養などへの関心は非常に高い。

このうち車に関しては、2009年の道路交通法の一部改正により、運転免許証の更新の際、年齢70歳以上が更新する場合、高齢者講習、シニア運転者講習、チャレンジ講習+特定任意運転者講習（簡易講習）のいずれかの講習を受講しなければならなくなった。

言い換えれば、70歳以上になっても運転を続けたいというアクティブなシニア層は、必ず自動車教習所に行かなければならないということでもある。

運転免許保有者の高齢化は進ん

CLA プレミアム MAGAZINE』がそれだ。

「JACLA」という名前には聞き覚えがあるかもしれない。発行しているのは、自動車教習所で広告事業を手掛け、デジタルサイネージ「JACLA TV」など多彩な実績を持つ日本カーライフアシスト。

これまでは、自動車教習所で若者向けの媒体や広告企画を展開してきたが、その同社が満を持して高齢者をターゲットに広告事業を始めることになった。

全国で約1,300ある自動車教習所のうち、約850校と協力関係にある同社だからこそ実現できた媒体とも言える。

同誌は、A4判・カラー、発行部数20万部で、年2回（6月と10月）発行の予定。広告料金は、タイアップ1ページ110万円（掲載料+記事制作料）など。

興味を持った人が手に取る留め置き式ではなく、講習前に配られる資料と一緒に手渡されるため、受講者に確実にリーチできるのも強み。

創刊号の記事をみると、自動車専門ライターによる車の最新情報やトヨタ自動車のハイブリッドカー「アクア」で行きたい極上温泉スポット、現役レーシングドライバーが提唱する車を運転するための訓練方法などが目を引く。

ユニークなのは、近年の車に搭載されている「自動ブレーキシステム」の体験記。千葉・市原市内

●ひと・もの・のうほう



▲創刊号（左）の表紙は草野仁 教習所には高齢者が数多く訪れるように（右）

ひつきたいという声もあったという。

今後もこうした高齢者向けの試乗会をメーカーやディーラーと共同で積極的に開催する方針。

さらにディーラーとは、これ以外にも新しい試みに取り組んでいる。トヨタのカローラ店とは、シニア向けに車の安全運転やエコドライブを紹介した小冊子を作成し配布するといった実績もある。

このほか、フリーマガジンとのセットで、高齢者に向けたサンプリングの企画も設けた。

1業種1社限定で、最大10社の商品の一つのパッケージに同梱